

(様式2)

令和 5 年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1575900210		
法人名	(有)五輪		
事業所名	グループホーム ゆうゆ(2ユニット共通)		
所在地	新潟県中魚沼郡津南町大字外丸丁1458		
自己評価作成日	令和5年8月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会 外部評価機関「あいエイド新潟」		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	令和5年10月31日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

\*周囲には山や信濃川があり自然環境に恵まれています。利用者の皆様には馴染みの山河がすぐ目の前にあり日常の会話に生かされています。地域にも馴染みの関係が築かれ、野菜などの差し入れも多くなりました。職員もここで生まれ育った方が多く、地元の言葉での会話もあり穏やかな関係が築けています。利用者の皆様の表情が豊かになったとの言葉も聞かれるようになりました。利用者の皆様には当ホームで生活が出来て良かったと感じていただき、残りの人生を楽しく過ごしていただくことを目標に努力しています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、周囲に信濃川や山があり自然に恵まれた地域にある。JR津南駅の広場と通りを挟んだところに位置し、開設20年目を迎える事業所であり、もともとは1階のユニットのみで開設したが、地域のニーズに応じて2階のユニットも増設して15年となる。1階の事業所の風呂には、津南駅構内からの温泉が引きこみされており、いつでも温泉を楽しむことができる。利用者も職員も津南町の出身者であり、地元の言葉での会話が弾み信頼関係も築かれている。

令和3年度には、時代に合った理念の見直しを職員全体で検討した。「笑顔」「個性」「絆」の3つの言葉を掲げ、それぞれ『笑顔で1日を終えることができるように目指します』、『一人一人の歩んでこられた生活を大切にします』、『家族や地域の方々と共に支え共に歩む事業所を目指します』という理念を明文化している。さらに、3ヶ月ごとにスローガンを掲げて意識付けを行っており、職員も個々で理念について意味合いを理解して言えるようになっていく。理念は職員会議で年に数回振り返りを行い確認している。

昨年には医療法人のグループ事業所となり、看護師による研修会を月1回開催するなど職員の学びの体制が充実した。研修は職員のリクエストにより急変や緊急の対応、感染症等などの内容で、全職員が参加できるように実施されている。主任やリーダーなどの職位ごとの研修も確保され、職員それぞれが役割と課題を明確にして取り組んでいる。事業所内での委員会活動には全職員が所属し、より良いケアの提供に取り組んでいる。

町立の訪問看護ステーションとの医療連携体制も構築されており、夜間は町立病院の当直医、外来看護師につなげることができるようになり、利用者や家族、職員の安心につながっている。

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	発足18年を迎え、理念について職員と話し合い、時代に合った理念を作る事になり、リーダー職員が中心に新しい理念を掲げた。	令和3年度に全職員間で理念の見直しをして、「笑顔」「個性」「絆」の3つを掲げた。それぞれに込めた事業所の思いも具体的に明文化し、玄関、各事務室に掲示している。年数回、職員会議で振り返りをするほか、理念をより意識化できるよう3ヶ月ごとにスローガンを掲げ、毎日取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍ということもあり、行事を通じての交流はほぼ中止になり交流は難しかったが、地域の方が、自宅で採れた野菜などを持ってきて下さり、その際に交流できた。その他年2回町全体で行われるクリーン行動(ごみ拾い)に参加した。	コロナ禍で地域との行事や交流は中断していたが、現在は、地域の小学校との交流や傾聴ボランティアの受け入れを再開した。地域の祭りでお神輿を事業所に呼んだり、敬老式に家族に参加してもらう等、徐々に交流を広げている。室内には小学校の生徒が作ったカレンダーが飾られているが、カレンダーのお札には利用者が運動会の応援グッズを作るなど相互にやり取りをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症について研修会を開催したり、つなぐ認知症フォーラムの協力は行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度の開催を基本に行っているが、感染予防の為、人数を制限しながらの開催となっている。その為、以前のような多方面からの意見が少なくなっている。	コロナ禍では職員の会議参加人数を1名とし、できるだけ対面で開催してきた。今後は、会議の活性化に向けて、避難訓練や行事に合わせて会議を実施したり、利用者の参加についても検討している。会議では防災についても協議し、危険を察知したら早めに避難をすることを行政とも確認している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月1回、介護サービス事業所状況を報告し、町全体の介護サービス事業所の情報を共有している。	コロナ禍では研修は少なかったが、案内があった時はオンライン(Zoom)で会議に参加するなどした。行政担当者への事業所の利用状況の報告は、月1回行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	令和5年10月31日 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1度、身体拘束委員会を開催し、身体拘束、虐待について勉強会をしている。 (事例検討等)	身体拘束委員会を3ヶ月に1回開催し、職員会議の中で研修会も実施している。研修会は年2回行っており、職員全員が参加できるようにしている。センサーはADLの低下や立ち上がりによる転倒リスクの高い利用者にもみ使用し、毎月検討会を実施して家族への説明も丁寧に行っている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3か月に1度、身体拘束委員会を開催し、身体拘束、虐待について勉強会をしている。 (事例検討等)	高齢者虐待防止についても、3ヶ月に1回身体拘束委員会を開催し、研修会も実施している。6月には全職員を対象に、利用者への声かけや口調等対応についてのアンケートを実施し、現在集計中であり、結果をふまえて振り返りとして各フロアで話し合いをしていく予定である。職員のストレスケアにも今後力を入れていきたいと考えている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学習委員会で計画し、勉強会を開催し、制度などの勉強をおこなっている。入居者の皆様には成年後見制度対象となる方はおられない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に契約書、重要事項説明書の説明の中で、ご家族様、利用者様の心配事、疑問点などあった場合出来る限りの説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケートは実施できていないが、日々の様子を計画作成担当者が電話にて意見などを聞いている。	毎月居室担当職員がお便りを作成して家族に送付している。家族からは事業所の駐車場の白線を見やすく引いてほしいという意見があり、整備した。利用者からは日々の関わりの中で要望等を聞いており、「干し柿が食べたい」という声を受けて、干し柿作りを一緒に行い楽しむなどしている。家族アンケートはコロナ禍前は実施していたので、今後再開を検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員には職員会議の中や各委員会で日頃の業務の中のハード面等の意見・要望について取り上げ、検討し、反映、改善している。また、R2年より情報共有を密に取る為に月1回のリーダー会議を開始している。	各フロアごとに職員会議、リーダー会議を開催している。また、各委員会を設置して全職員が役割を担っている。主任や計画作成者には職務に関する役割を明確化して協力体制を整備し、情報の共有に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	新たな加算取得しキャリアパス要件の基準を設け、職員の賃金改定を行った。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会を事業所内で実施し、受ける側、講義する側両者の向上につなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ZOOMにて会議を行われる際は参加し、その他電話で業務改善の相談などを行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談ではご本人の思いや今までの生活状況など伺い、これから生活されていく場所がどんな所なのか事前に見学して頂くよう努めているが、見学に至る方は少人数である。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	問い合わせや入居申し込みの時点から不安や要望などを伺い、入居時には解決に向けて支援方針をお伝えできるように取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当していたケアマネージャーや居宅介護支援事業所、主治医、訪問看護などから情報を得たり、対応が困難な場合は地域包括支援センターより協力を得て検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できること、得意なことで自信を持てるような支援を、介護が必要なことについてはご本人の思いを尊重した支援を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染状況に応じ、対策を講じながら段階的に制限を緩和したり、ご来所が難しいご家族様にはZOOMを利用した面会や、毎月のおたよりにて行事の案内や日々の生活の様子が伝わる写真を添えて送付している。	以前から広報委員会が広報誌を作成して家族に送付している。コロナ禍前は4か月に1回の発行だったが、コロナ禍で面会ができなくなったことから発行回数を増やして3ヶ月に1回とし、できるだけ利用者の生活の様子を家族に伝えられるようにしている。感染対策を講じながら、ガラス越しの面会やオンライン(Zoom)の面会、電話で話をしてもらうなど、家族との関係が途切れないよう工夫している。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染対策を行いながら、面会や外出(ドライブ)などを行っている。	コロナ禍前は、親戚や以前の職場関係の方が来訪してくれたり、地域の床屋に出かけるなどしていた。現在は手紙のやり取りなどにより関係継続を支援している。今後、コロナ禍前の対応に戻せることはないか検討している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や好み、得意分野や思いを汲み、対立や孤立することがないよう職員が調整役を努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先の事業所と連携を図り、他のサービス利用が円滑に行えるように支援している。訪問時に、山菜や野菜を持って来てくださり、契約終了後も途絶えない関係が続いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴やドライブなど個別で関わられる機会を活用して得られて思いや意向はご本人の言葉でアセスメントシート(センター方式)に記入して支援に繋げている。	居室担当職員が中心となり、アセスメントシートを活用して情報を収集している。利用者からは行きたいところ、食べたいものなどの意向が多く聞かれている。日々のケアの中で得た情報は、職員間で情報の共有に努めて支援につなげている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に得た情報に加え、入居後の生活の中で新たに得たことをセンター方式に追記し、ケアプラン作成に生かせるよう努めている。	入居前に計画作成者や主任が自宅を訪問して、生活の状況やベッド等の位置、1日のリズム、食事の状況、排泄状況などを確認している。他のサービス事業者からも情報を得て、入居後の生活に活かせるように工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間でカンファレンスなどを行い、一人ひとりの生活習慣や心理状況、全体像の把握に努めている。気づきなど、職員間で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は居室担当者を中心に3カ月、6カ月の定期的見直しとともに身体状況の変化だけにとらわれない、随時見直しも心がけている。	居室担当職員によるモニタリングを3か月に1回実施し、6か月に1回介護計画の見直しを行っている。居室担当職員が利用者本人の意向を聞き、フロア会議でのカンファレンスを経て、利用者自身の言葉も盛り込んで計画作成者が介護計画を作成している。家族の7割が町外在住のため、担当者会議への参加は難しいが、その都度電話したり、来訪時に十分に意向を確認して説明をしている。身体状況の変化時は随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の様子や支援内容は個別に記録し、ご本人の言動をそのまま残すことでその時の状況を共有でき、ケアプランの見直しなどにも活用されている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を整えている。毎週水曜日に訪問看護師の来所がある。ご本人、ご家族にとって一番良い方法を常に考えるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍は津南小学校の生徒と作品のやり取りや移動図書館の利用しかできなかったが、5類移行後は運動会の見学など、徐々に地域行事への参加も行えるようになってきた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入院や検査対応が整っている医療機関を於いて、定期受診や訪問看護、緊急外来などの連携体制が整っている。	ほとんどの利用者が町立病院を受診している。受診時は家族に同行を依頼しているが、家族が遠方等の理由で協力が得られない時は職員が同行している。町立の訪問看護ステーションとの連携もできており、電話等で指示を受けられるほか、夜間も町立病院の当直医や外来看護師につなぐことが可能となった。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護の際、状態の把握の共有を行い、受診対応や指示伝達に繋げている。また平日昼間であれば電話で指示を仰ぐなどの連携も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはフェイスシートも添えて情報共有に努め、入院中は地域連携室と連絡を取り情報を得ながら退院に向けての調整をしている。主治医、ご家族等と退院前のカンファレンス(ムンテラ)を必ず実施するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化・終末期の指針を説明し、本人・家族に同意を得て、有事の意向を伺っている。また、訪問看護や系列法人(病院)と連携を図り、情報交換することで重度化に対する方向性を検討している。現在は重度化の状況により、近隣の特養への入所申請をして頂くようお願いしている。できる範囲でご本人の状況やご家族の意向によっては重度化の支援もっており、医療連携体制を整える準備を協力機関と進めている。	1年前に事業連携した系列病院とは医療連携を密にして重度化や終末期への対応をしている。変化がある都度、家族にも十分に説明して意向の確認を行い、特別養護老人ホームへの住み替えや療養病棟への移行等の支援を行っている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応について、勉強会等で学びマニュアル化している。初期対応の訓練は行われており、対応力を身につけている。	「学習委員会」が企画し、系列病院の看護師を講師として月1回外部研修会を行っている。看護師が来訪し、全職員が参加出来るように3クール開催し、実技を加えて実施している。緊急時や急変時の対応についてはファイルにして各フロアのカートに入れていつでも確認できるようにしている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回、防災訓練を行い、年1度地元消防団や行政職員、地域住民と洪水対応避難訓練を行っている。	信濃川が近く洪水被害が想定されている地域でもあり、地域の消防団との協力連携体制が構築されている。避難訓練は夜間想定で実施しており、今年度は運営推進会議に合わせて訓練を予定していたが、当日の悪天候で延期となっている。	各種災害マニュアルの未整備部分を整備することに加え、備蓄品においても確認してリスト化して整備することが期待される。BCP(事業継続計画)の検討もされているので整備が期待される。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊重した言葉遣いや接し方を意識し、馴染みの関係を大切にしながら方言を使ったりしている。共通の話題や人格、プライバシーに配慮した対応に心掛けている。	学習委員会でプライバシー保護の研修を企画して実施している。声かけ等も言葉遣いに配慮し、時には方言を交えることで親しみを表現しながらも、尊厳を大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	些細なことでも本人の意思を尊重しながら、自己決定ができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お客様の希望時には散歩やドライブなど感染症対策をしたうえで個別支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	近年コロナ感染症が流行し、感染症対策を講じ、施設内で散髪を行っている。また、おしゃれはご本人が好きな物を着用して頂けるように声かけ支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備(下ごしらえ)、片付け、買い物、個々の力や役割に合わせて職員と一緒にやっている。食事には郷土料理がならび、季節感を味わうことができ、誕生日には食べたい物の希望を聞いて楽しめるようにしている。	献立は「食事委員会」で作成して、系列法人の病院の管理栄養士から指導を受けている。食材は職員が買い出しに行っており、利用者にもできる範囲で、準備や片付け、買い物等を一緒に担ってもらっている。おやつも季節ごとにちまきや干し柿を作り、楽しんでいる。誕生日には希望の食べ物を準備している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	スポーツ飲用やお客様が好む水分を提供している。また、嫌いな物がある方は代替食、歯が悪い方には刻み食を提供し、個々に合うように工夫しながら、栄養をしっかり摂れるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔洗浄、毎晩の義歯洗浄をして頂いている。かかりつけの歯科医院があり、何かあったらすぐに受診できるようになっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を継続できるように、時間間隔を把握して必要な利用者様にトイレ誘導を行っている。排便管理が必要な方は記録に残し、支援方法を職員間で共有している。	トイレでの排泄を原則としており、現状の機能維持ができるよう支援方法を職員間で共有している。夜間のみポータブルを利用している方もいる。排便コントロールは訪問看護師と相談して対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	プライバシーに配慮しながら排便確認をしている。個人に合わせた適度な運動や水分補給、乳製品、の提供など行っている。また、主治医に相談し下剤の処方をしてもらっている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	温泉浴と一般浴があり、週2～3回の入浴を支援している。利用者様にどちらに入るか選んで頂くこともできる。状態により入浴出来ない方は全身清拭し、利用者様一人一人に合わせた支援を行っている。	1階には温泉が引かれ、複数人で入浴も可能であり、希望に合わせて楽しんでもらっている。2階は一般的な家庭浴であり、利用者の状況に応じて、希望に応じて選んでもらったり、職員が声掛けして入浴している。入浴拒否があった方にも根気よく声かけをして、今ではスムーズに入浴してもらえようになった。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムに合わせて入床の声掛けを行い、不眠時にはお客様に寄り添った対応を行っている。また、室内の温度調節などにも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の効能や副作用を理解し、服薬時まで誤薬が無いように3重チェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の会話の中でアセスメントをしながら、楽しみや張り合いが持てるよう支援している。散歩やドライブ、季節に合わせた食事やイベントを実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	駅周辺や集落内の散歩に出かけたり、状況に合わせてドライブに出かけている。できるだけ利用者様の希望に沿えるよう支援している。	コロナ禍前は、社会福祉協議会のバスを借りて季節ごとに地域の観光地をドライブするなど楽しんでいた。現在は少人数で花見などに出かけたり、個別の外出としては、受診時に家族の協力を得てお墓参りに出かけたり、自宅を見に行ったりなどしている。新型コロナウイルス感染症が5類に移行したので、外泊等もコロナ禍前の対応に戻したいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様と相談し、小遣いを所持されている方の買い物支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や年賀状を書ける方に書いていただき、一緒に郵便ポストに投函している。電話はお客様よりその都度ご希望があればその都度対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	浴室のレイアウト変更により、以前より広くなり使いやすくなった、また、ホール(居間)では好きな場所でゆっくり過ごして頂き、季節の花が飾られ、お客様が描いた絵画など展示されており、地元小学生が作ったカレンダーをお客様が毎日掲示されており、温かい雰囲気が作られている。	ホールにはソファが置かれ、自由にくつろぐことができている。食事のテーブルは大きくゆったりしており、全員が揃って食事を楽しむことができる。季節の花を飾ったり、壁には利用者が描いた絵や小学校の生徒が作ったカレンダーを飾り、和やかな雰囲気作りがされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日当たりの良い物干し場や玄関などに椅子を置き、お客様の好きな時間に好きな場所でゆっくり過ごして頂けるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様にお客様の馴染みの家具や装飾品などの持ち込みをお願いし、自宅での生活に近い環境を作り心掛け、居心地の良い居室空間づくりに努めている。	それぞれの個性をふまえ、家族の協力を得て馴染みのものが持ち込まれて、居室作りがされている。エアコンの温度管理は個別に対応し、掃除は利用者と職員と一緒にこなしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な個所に手すりを取り付け、床はバリアフリーでエレベーターを設置し安全に移動できる環境になっている。トイレや各居室に見やすい所に印や名札を付けわかりやすいようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				